

経営比較分析表（平成28年度決算）

東京都 瑞穂町

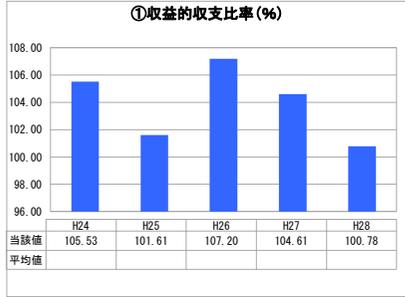
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家賃料(円)
-	該当数値なし	97.42	89.75	1,571

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
33,716	16.85	2,000.95
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
32,755	7.67	4,270.53

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



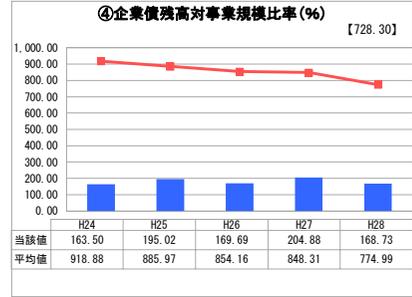
「単年度の収支」



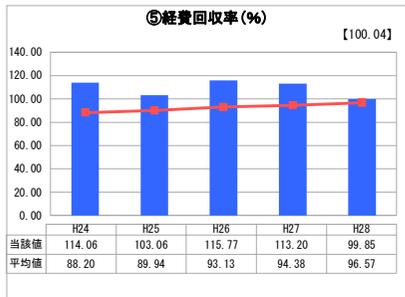
「累積欠損」



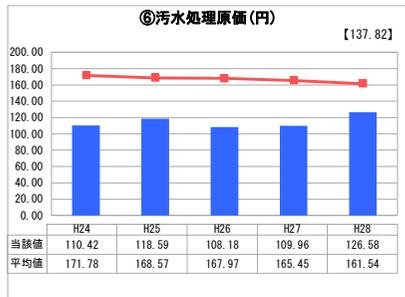
「支払能力」



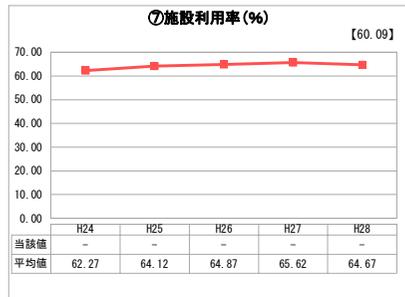
「債務残高」



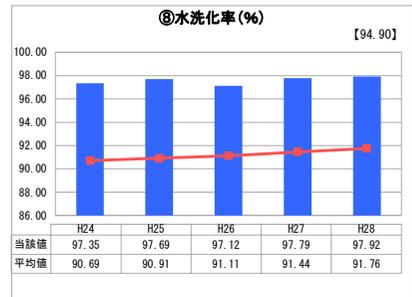
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

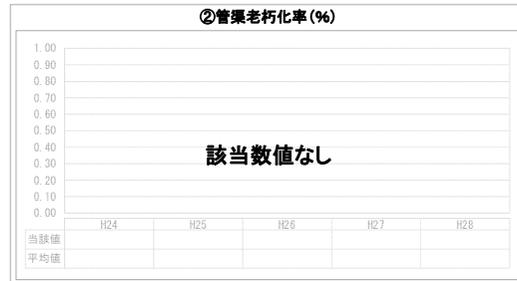


「使用料対象の捕捉」

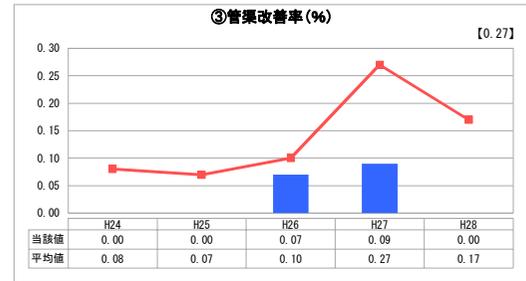
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率について、100%以上を維持しているものの、過去3年は右肩下がりとなり、その要因としては施設の修繕や調査等の維持管理費の増加である。今後、施設更新等の更なる費用増加が見込まれる中、計画的な維持管理を行う。

④企業債残高対事業規模比率について、企業債に依存しすぎることなく、償還も順調に進み類似団体平均値、全国平均と比較して低い状況である。一方で、今後、市街化調整区域の汚水管渠整備や雨水管整備等の財源として企業債を予定しており、企業債残高は増加する見込みである。

⑤経費回収率について、収益的収支比率と同様の要因で汚水処理費が増加したため、100%を下回る結果となった。今後、計画的な維持管理を行うが、比率が著しく悪化する場合は、法適化後に料金の適正化について検討する。

⑥汚水処理原価について、類似団体平均値、全国平均と比較して効率的な汚水処理が実施されている。更なる有収水量の増加に努めるとともに、費用の平準化を図り計画的に維持管理を行う。

⑧水洗化率について、類似団体平均値、全国平均を上回った状況であるが、引き続き接続率の向上に努め、水洗化率100%を目指す。

2. 老朽化の状況について

③管渠改善率について、類似団体平均、全国平均と比較して改善率が低く、平成28年度は管渠改善を実施していない。現在、維持管理計画に基づき、管口カメラ調査、詳細カメラ調査を実施しており、その結果に基づきストックマネジメント計画を策定し、計画的に管渠改善を図っていく。

全体総括

経営の健全性・効率性について、類似団体平均値、全国平均と比較して概ね健全で効率的な経営を行っているが、指標によっては注視すべきもあり、使用料の大きな増加が見込めない中で、施設更新等の維持管理事業に加え建設改良事業も予定されており、更なる経費削減と財源確保に努め、健全経営を維持していく。

また、平成32年度（2020年度）の法適化に向けて事業を進めており、法適化後はストック情報や損益情報の的確な把握により、財務状況を明確にして適切な更新計画や経営計画に基づき、経営の効率化、行政サービスの向上を図り、持続性のある下水道経営を行う。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。